

# メシュエン条約

蔵谷 哲也

John Methuen's Commercial Treaty of December 1703

Tetsuya KURATANI

## ABSTRACT

The Methuen treaty of December 1703 was a kind of bilateral trade treaty and has shown us how a discriminatory trade arrangement may be influential on the economic behavior of the charter states. As background leading to the conclusion of the treaty, its political and economic effects on the parties concerned are discussed. It is undeniable that it has forced British consumers to switch from drinking claret to drinking port since 1703.

KEYWORDS : treaty, Portugal, England, wine

### 1. メシュエン条約の現代的意義

メシュエン条約は現代の貿易政策で再発する重要で議論を呼ぶ主題を提供している。多国間繊維取極め (Multi-Fiber Agreements) 下での二カ国間繊維製品協定, ローカルコンテンツ法, アンチダンピング法は明らかにメシュエン条約の中に前例を持つ。これらの法はフランス製ワインに対する差別的ワイン関税と同様にある特定な市場から望まれない財を締め出すという役割を果たす。<sup>1</sup> また、この条約は英ポルトガル貿易に影響を与え、少なくともリカードの時代まで影響が伝わり、比較優位の好例となったのである。デイビッド・リカードが『経済と課税の原理』で貿易からの利益の議論を示す為に、イングランドの布をポルトガルのワインと交換することによって達成される利益は自由貿易に対する寛大な見解の強力な陳述である。

### 2. ブラジルの貴金属とポルトガル国内事情

1693年から1695年にかけてサンパウロから探検を行っていたバンデイランテス (bandeirantes) が、1689年、ミナス・ジェライスで金鉱脈を発見すると、ゴールド・ラッシュが起こった。さらに1729年にはジアマンチーナ (Diamantina) で、ダイヤモンド

が発見された。18世紀において、この地方は世界金供給の約44%を産出していた。当時のポルトガルとグレート・ブリテンの緊密な経済関係ゆえに、ブラジルの金はイングランドの産業革命に資金融資をしていたと言われている。<sup>2</sup> ポルトガルは植民地で強奪した金銀で他国の商品を購入し、自国の成長に有益に用いなかったとリストは述べている。<sup>3</sup>

1681年にエレセイラ伯爵 (Count Ereceira) が宰相になった時、エレセイラ伯爵は自国製の羊毛を使いポルトガルと植民地に製品を供給する目標を持って、ポルトガルに布製造業を確立させるという計画を着想していた。この目的のために、イングランドから毛織物職人が招かれ、奨励が与えられ、毛織物製造は急速に確立したので、3年後の1684年には、外国の毛織物の輸入禁止をすることが可能になった。この時から、ポルトガルは、自国の原料による毛織物製品を自国に供給し始めた。そしてこの産業は19年間に亘って、つまりメシュエン条約の年まで繁栄したという。<sup>4</sup>

### 3. 1654年英ポルトガル条約 (Treaty of Peace and Alliance, between Oliver Cromwell, Protector of England and John IV. King of Portugal) <sup>5</sup>

経済的低落の根源はポルトガル自身の境界内に存

在していた。1654年の条約は英国商人の立場を過度に有利な立場に置いた。イングランドの法律を超え、ポルトガルの法律の外において、商人達が一つの国の中に一つの国を形成することを許したのである。<sup>6</sup>

1808年1月28日の法令はブラジルの港を世界貿易に開放したのだが、その年までは、この植民地の通商はポルトガル人とポルトガル船舶に限定されていた。ただし例外があり、それはポルトガルの保護国であり同盟国であるグレート・ブリテンであった。

1654年の条約によって、英国の商人はポルトガルとブラジルの港間の貿易をすることを許された。英国船舶はリスボンでの公式入港手続きを無視し、ブラジルとの直接的禁制品通商に精を出していたのである。そして、1808年の自由貿易法令はブラジルの通商をグレート・ブリテンが実質的に支配していることを再確認したに過ぎなかった。<sup>7</sup>

ついでながら、この1654年の条約は、イングランドが中国大陸における唯一のヨーロッパ人居留地となったマカオとの通商することを公に認可した。<sup>8</sup>

#### 4. ポルトガルの内情

前述のように、経済的後退の原因はポルトガルの内部にあった。英国の通商の優勢はメシユエン条約から始まったものではなく、英国商人の立場を過度に有利なものとした1654年の条約から始まった。

ペドロ2世(1648-1706)はアフォンソ6世(勝利王)の弟であり、兄が死去するまで、摂政王太子(prince regent)として国を支配した。ペドロ2世は当初、スペイン継承戦争でフランスを支持したが、メシユエン条約ゆえに不本意であったが、イギリスに従属した。<sup>9</sup>

キャサリンオブブラガンザ(Catherine of Braganza)はイングランド王チャールズ2世の王妃であり、後のポルトガル国王ジョアン4世の次女であった。ジョアン4世は、ポルトガルの独立を守るため、イングランドとの同盟関係を樹立する必要があった。そこで娘をチャールズ王太子(チャールズ2世)に嫁がせた(1662年)。この結婚は2カ国間の長期的な貿易上の結び付きを強化した。<sup>10</sup> キャサリンは世

継ぎを産まなかったことにより、チャールズ2世が死去したのち、ポルトガルに帰国し、メシユエン条約を支持したり、弟のペドロ2世に摂政として仕えた。<sup>11</sup> 1702年に駐ポルトガル大使としてメシユエンはポルトガルに戻ったが、ポルトガルをフランスとの同盟から離し、第二次大同盟(second grand alliance)に参加するように促す指示を与えられていた。メシユエンは、当時病弱であったペドロ2世とキャサリンオブブラガンザと友好的な関係を構築することに成功した。キャサリンは2カ国間のより緊密な関係樹立を望んでいたので、キャサリンの支援もあり、ポルトガルを説得し、同盟国と和解することがいかに価値があるかを信じさせることができた。<sup>12</sup>

ペドロ2世の後継者であるジョアン5世(1706-50, 寛大王)が即位する前に、メシユエン条約によってポルトガルはスペイン継承戦争に巻き込まれた。しかし、アルマンサ(スペインのレヴァンテ地方, 1707年)の大敗北の後、ポルトガルは戦闘では役割をほとんど果たさなかった。この戦争後、ポルトガルはイングランドとの同盟を維持しようと努めた。<sup>13</sup>

#### 5. 在ポルトガル英国商人の役割

英国の商人はますますポルトガルに拠点を獲得していた。その足掛かりは古くから存在するものであり、早くも15世紀には、ポルトガルの英国商人達は特権を獲得していた。例えば、武器の所持や家屋の所有の権利、ポルトガル兵役、様々な税や申告の免除があった。<sup>14</sup>

彼らはリスボンやオポルトに拠点を構えていた。イングランドの布を運び込み、現金の方が好ましかったが、その支払いをワインで受け取ったりしていた。現金払いが好まれたのは、英国消費者がポルトガルの渋いワイン(rough wine)よりもフランス産ボルドー赤ワインをはるかに好んだからである。<sup>15</sup>

イングランドのワインの船荷主はこの機会を最大限に活用し、ポルトワイン貿易が開花した。ポルトワイン貿易にイギリスが強力に関与したことは、

ポートワイン船荷主の名前の中に見出される。すなわちCockburn, Croft, Dow, Gould, Graham, Osborne, Offley, Sandeman, TaylorそしてWarre等である。そして、彼らはポートに定着し始めたのだ。Warre, Sandemans Grahams, Taylorの子孫たちは今日でも紳士クラブを形成し、ワインについて協議している。<sup>16</sup> しかし、イングランドがポートワイン貿易を完全独占したわけではなく、NiepoortやBurmesterというようなオランダやドイツの船荷主も有名であった。<sup>17</sup>

メシュエン条約はポルトガル産ワインに有利な差別関税を賦課した。この差別関税のみならず、1703年を含めて当時、イングランドはフランスと交戦中だったので、イギリス人がフランスワインを入手することは困難であった。<sup>18</sup> 従って、経済的手段と外交上の2つの理由によって、ポートワインをかつてのワインの代替物とすることになった。<sup>19</sup> メシュエン条約はイングランドのポルトガル産ポートワインの輸入を促進し、イギリス人の酒として封印したのである。<sup>20</sup> イギリスにおけるワインの埋蔵物の中には数多くのポルトガルのラベルや荷札が見出されることもその部分的証拠である。<sup>21</sup>

## 6. メシュエン条約

18世紀初頭におけるポルトガルの外交事情は、スペイン継承戦争によって複雑になった。戦争中、ポルトガルは最初フランスと同じ側にいたが、1702年春にポルトガルに海軍船隊を派遣したイングランドからの圧力によって、1703年5月16日に反フランス同盟に加わった。同日、英国とポルトガルはリスボン条約に調印した。これは2カ国の永久同盟を宣言するものだった。そして2つめの英・ポルトガル条約、すなわちメシュエン条約は1703年12月27日に調印された。ペドロ2世（ポルトガル・ブラカンサ王朝の国王）とアン（イングランド・スコットランド女王）の間に誕生したこの条約はメシュエン通商条約として知られ、イギリス大使のジョン・メシュエンにちなんで名づけられた。この条約の条項下では、英国は毛織物（wool cloth）をポルトガルに輸出す

ることが許された（1677年にポルトガル政府は英国の毛織物品（woolen）の輸入を禁止していた）。そしてポルトガルは英国にワインを有利な条件で輸出する権利を得た。この条約の政治的帰結は明示的に述べられていないが、両国にとって顕著な価値を持つものだった。この条約はポルトガルとブラジルの統合を保証する英・ポルトガル同盟の継続の頼みの綱であることが判明した。この条約は英国貿易家の通商上の強い願望、特にブラジルとの実質的な直接貿易を確保するという目標を満たすことはできなかったが、英国貿易家はポルトガル植民地との間接的な貿易の自由なアクセスを与えられた。付け加えると、この条約の間接的な結果として、ジブラルタルの貿易と維持の為の重要な西方側面を確保したのである。ジブラルタルは地中海勢力としての英国の出現のための要所であった。<sup>22</sup>

1703年の条約でメシュエンと名前が付けられた条約は合計3つあると見なすことができる。そのうち2つは1703年5月に調印された。これらは政治的な条約で、それぞれの内容は、攻撃的条約と防衛的条約である。そしてもう一つは12月に調印された。これは通商条約である。<sup>23</sup>

1702年5月、ジョン・メシュエンはリスボンに特命公使として派遣された。ポルトガルの同盟（the Grand Alliance）に対する固執を交渉するためである。そして1年後、そのために必須の条約が結ばれた。1703年12月、明示的な権威がないまま、自分の名前を付けた有名な通商条約を締結させた。わずか3条から成っている。しかし、実質的には2条である。その中の1条は英国の布を後の禁止に至るまで関税に従ってポルトガルに、輸入することを認めている。もう1条は、英仏が戦争中であろうと、平和であることに関わらず、ポルトガル産のワインをフランス産ワインに対する関税よりも3分の1低い関税で英国に輸入することを認めている。この条項がどんな時でも侵害されるなら、ポルトガルは英国の布輸入を禁止することを正当化できる。<sup>24</sup>

この条約は極めて適切な時期に誕生した。イングランドのポルトガル領のブラジルとの伝統的な貿易はたばこと砂糖であった。しかし、たばこは段々と

ヴァージニアのタバコが取って代わっていった。航海条例の影響もあり、イングランドの植民地の砂糖はブラジルからの砂糖輸入をほとんどすべて取って代わった。しかしながら、1688年以來、イングランドはフランスと戦争中であり、イングランドに輸入されるポルトガル産ワインはフランスに適用される関税の半分を払えばよかった。この優位は平和が一旦成立すると、消滅する見込みだった。一方、イングランドの毛織物産業は17世紀末に大きな拡大の時期を持ったが、1701年と1702年の市場の制約に起因する重大な危機に瀕していた。<sup>25</sup>

ポルトガルにおいてはエレセイラ伯爵は、最後の手段である1690年1月の毛織物業規制において、保護立法の不十分さを認識していた。なぜなら、ポルトガルの毛織物の品質は概して改善されないままだったからである。1690年、この伯爵は死去し、影響力が弱体化した。そして、メシュエン条約によって、ワイン貿易を利益の上がるものにしておくために、新進のポルトガル毛織物産業は犠牲になったのである。<sup>26</sup>

特徴の一つはこの条約には最恵国待遇条項が含まれていないことである。これが含まれていれば、貿易相手国間での差別を減じて、関税削減を確実なものにできる。メシュエン条約はフランスに対して差別を行い英ポルトガル貿易を有利な立場に置いた。<sup>27</sup>

## 7. メシュエン条約締結後

1703年のメシュエン条約で、イングランドがポルトガル産ワインを購入し、ポルトガル植民地の維持を支援するなら、ポルトガルは新進の繊維産業を断念することに合意したという。ポルトガルはイングランド製造業の財にますます依存するようになったが、ブラジルの金でこれらの財が購入されることとなった。<sup>28</sup>

欧州諸国と新世界のおかれている立場は重商主義政策をさらに進展させる原因であった。様々な国々との貿易の差異は、特定の国々との貿易を奨励し、その他の国々との貿易を妨げる積極的な試みを導いた。新世界は、関税賦課を用いた。欧州諸国が好ん

で使ったのは通商条約であった。加工してから輸出することが可能な原材料を供給しそうであるか、またはさらにより良いことだが、金銀を過剰に保有する国々については、特定の優位が提供されることによって、交易をするように誘引される。ポルトガルは、フランスに対抗する優位として、ポルトガル産ワインに対する優位をメシュエン条約を通してイングランドから受けた。その理由はポルトガルがブラジルの鉱山の支配権を持っていたからである。<sup>29</sup>

そしてこの条約はフランスのワイン貿易に打撃を与えた。この条約によってポルトガルのポートワインはフランスよりも3分の1低い関税を課せられて英国に輸入された。英国はポルトガル産のワインよりもフランス産ワインを選好したので、多くの密輸を生み出すはめになった。下層階級の人々はワインを購入する余裕がなく、ラム酒やオランダ製のジンで切り抜けることが出来た。<sup>30</sup>

ポートワイン（ポルトガルの暗紅色の甘いワイン）はスコットランドでのウイスキーが果たした役割と同じ役割を果たしてきた。それはあえぐ経済から英国への利益のある輸出品としての役割である。英国商人はすでにリスボンとオポルトに拠点を構え、英国の布を出荷し、必要な場合はその支払いをワインで受け取った。現金での支払いが好まれた。なぜなら、英国の消費者はポルトガル産のワインよりもフランス産ボルドーの赤ワインをはるかに好んだからである。<sup>31</sup>

ポルトガルは毛織物市場として、非常に重要な市場と見なされていた。ポルトガルはその国内消費の為にその輸入に依存し、ポルトガルの植民地に毛織物の輸出をしていたからである。フランスとイングランドはこの市場を確保することを切望していた。そしてそれゆえ、イングランドは特惠を確保すべきであることが最重要事項と考えられていた。従って、イングランドはポルトガルワインに対して顕著な犠牲を払って特惠を与えた。つまり、ポルトガルワインはフランス製ワインのいつも3分の2の関税を支払えばよかった。その時までイギリスの消費はフランス製ワインを選好していたが、この条約の特惠はフランス製ワインとブランデーの合法的貿易を

縮小させ、19世紀初頭まで密貿易を繁栄させることになった。<sup>32</sup>

メシエン条約以来、イギリス政府は最も人気のあるワインに対する財政的取極めを継続的にいじくり回していた。ワインは需要が大きいのみならず、大量貯蔵容器で出荷されるので、結果的に容易に課税可能な商品であったからである。<sup>33</sup>

メシエン条約調印から、10年経過して、ボリングブrouク (Bolingbroke) は新政策を導入する努力をした。フランスとの通商条約を交渉したのである。その協定の中ではどう見ても、メシエン条約を終結させるものであった。最恵国待遇が与えられている財と同じ条件ですべてのフランス財を輸入することを考慮した条約である。つまり、英仏が相互関税削減を行い、比較的自由的な貿易を持つことを意図した。<sup>34</sup> 残念なことに、イングランドにとってはボリングブrouク (Bolingbroke) が示唆した政策変更に対して、人々は十分準備できていなかった。政治著述家たちはフランスとの貿易は害のあるものであり、ポルトガルとの貿易は有益であることを示し始めた。議会はこれらの議論の誤謬を発見することができなかった。イングランドの庶民院はこの条約をぎりぎりの過半数で却下した。それから70年以上、フランスとの通商協定のことは取り上げられなかった。1787年、小ピットがボリングブrouクが提案した政策を再び取り上げて、英仏条約を締結した。この条約は戦争によって中断され、短命であった。<sup>35</sup>

ポルトガルに自由貿易を課したことは、ポルトガルの将来有望な繊維産業を全滅させ、ワインに対する成長が緩慢な市場を残した。一方、イングランドは、綿布の輸出は資本の蓄積、機械化、産業革命の急速な成長を導いた。<sup>36</sup>

この条約はポルトガルとブラジル貿易における重要な特権を英国産業と商業に与えた。<sup>37</sup> 英国が成長するブラジル市場に貿易でアクセスすることを可能にした。<sup>38</sup> ブラジルの金は英国の産業革命の資金源になった。<sup>39</sup> この条約によって、英国がポルトガル産ワインを購入し、ポルトガル植民地保持を支援するなら、ポルトガルは生まれかかっていた繊維産業を取りやめることに合意することとなった。ポルト

ガルは英国産業の製品にますます依存することになり、その支払いにはブラジルの金が使われたのである。<sup>40</sup> この条約の結果の一つは、ポルトガルからロンドンへのブラジルの金の輸出増大であった。毎月、通関手続を免除された2隻の戦艦がリスボンにきた。これらの船はポルトガルを合法的には持ちだすことのできない金を英国に運んだ。<sup>41</sup> ポルトガルがブラジルに供給することができない財を英国から輸入し、ポルトガル産ワインの販売であてがうことの出来なかった分をブラジルの金によって支払われた。ブラジルの金貨は当時英国の共通通貨であった。<sup>42</sup>

メシエン条約に基づいて締結された平和によって、英国製品はスペイン半島に自由に参入することが許された。<sup>43</sup>

メシエン条約後、ポルトガルは英国と緊密な関係を持ち、ボンバル (Pombal) の啓発された暴政下で、ポルトガル帝国を強化し、近代化する多くの手法が採られた。<sup>44</sup>

英国はこの条約によってポルトガルで大きな優位を得た。<sup>45</sup> これらの手法はポルトガルにとって不利なものであったことが判明したと考えられている。なぜなら、ポルトガル北部の多くの農夫は穀物耕作地をブドウ栽培のために断念したので、穀物輸入を必要なものとさせてしまった。その一方では、2カ国間の貿易赤字はブラジル金鉱からの金による支払いによって埋められた。今度はこのことが為替相場に影響を与え、リスボンよりもロンドンにおいて増価し、その結果、ロンドンは銀行や通商の中心地としてより重要な存在となった。<sup>46</sup>

特にメシエン条約締結後、イングランドは、ポルトガルの主人を演じたのみならず、ポルトガルに対してほぼ独占的貿易を行った。すなわち、製造品はもとより、些細な生活必需品まで輸入させたのである。幸いなことに、イングランドへのポートワインの輸出は著しいものであった。さもなければ、ポルトガルはイギリスからの輸入財全体を手持ち現金で支払わなければならなかったであろう。1844年、ポルトガルは33,946大樽のポートワインを輸出したが、その約75%がイングランドへ輸出された。<sup>47</sup>

1806年にプロセインの軍隊を破ったナポレオンは、

残りの主要敵国である英国に対して、降伏を導くことを意図した経済封鎖を宣言した。しかし、ポルトガル経済はこの条約以来、英国との貿易に依存するようになり、この経済封鎖に参加できる立場になかった。その結果、ポルトガルの王室は英国海軍の護衛でブラジルに逃亡し、ナポレオンはポルトガルを占領した。<sup>48</sup> ポルトガルの王室をブラジルに移住させることは、イギリスの影響力を増大させ、ブラジルとのより直接的な通商取引を持つ為の手段であった。<sup>49</sup> ポルトガルはこの条約以来、英国の重商主義制度の基本的な部分として働き、18～19世紀を通して英国の衛星国家として機能を持った。<sup>50</sup>

ポルトガルはスペイン継承戦争に巻き込まれた。しかし、アルマンサ（1707年）の大敗北後、ポルトガルは戦闘ではほとんど役割を果たさなかった。<sup>51</sup>

基本的にはリスボンとオポルトから英国へより容易な条件で輸入され、裕福な英国世帯で自由に消費されたワインは、社会的地位を認められたイギリス人に対して、痛風をほとんど避けることのできない病気とした。<sup>52</sup> ポートワインの大量飲酒はメシュエン条約によって奨励されたのである。<sup>53</sup>

この条約はフランス貿易よりも、英国がポルトガルとスペインと貿易することを有利化した。英国はポートワイン（port）とシェリー酒（sherry）を愛好することが確認された。すなわち、この条約の条項によって、英国は関税を軽減することによって、ワイン貿易においてポルトガルを支援した。その後、英国で飲まれる大部分のワインはポルトガルまたはスペインから輸入された。<sup>54</sup> フランスのブルゴーニュワインの消費がポルトガルのポートワインによって置換されることにこの条約は貢献した。<sup>55</sup>

## 8. この条約に関連することから

戦争期間は、フランスのような競合国からの輸入を制限するか除去するという強い圧力を強化した。戦争は貿易に関する通商政策と製造業促進を、貿易を明白なゼロ・サムゲームと見なす固定された見方を促進するような観点から考察するように仕向けた。イングランドは、イングランド財の市場を保証し、

ワインや亜麻布のようなフランスからの輸入代替を進展させる二カ国間貿易協定を促進させるために、ポルトガルにおける特権的地位を活用した。<sup>56</sup>

18世紀中のイングランドの貿易交渉は厳格な互惠性に基づいてなされたとコニーベア（Conybear）は述べている。イングランドとポルトガルはメシュエン条約を通じて、相互利益の条件で特惠関税の交換がなされたという。<sup>57</sup> 特惠的取極めが発効後、特惠関税が扱う品目以外に様々な影響が及ぶことが容易に想像される。それゆえ、ある期間中において、貿易協定から受ける便益を両国が同等に受けるかといえ、それは不明である。しかし、互惠性が実際の交渉の基盤となっているなら、どのような便益が期待されるかは、交渉関係者の立場から推定できるかもしれない。まず、この条約は無数の財とは対照的に毛織物とワインしか扱っていない。そうすると、単純化すると、これは、コートとズボンを着用するポルトガル人とワインを飲む英国人の費用負担によってイングランドの服地屋とポルトガルのワイン醸造業者に便益を与える取極めであったと言える。

皮肉なことに、ポルトガルワイン貿易は市場諸力よりも政治的制約からもたらされたものだった。フランス製ワインがイングランドの消費者によって嗜好されていたが、外交上の理由で、ポルトガル産ポートワインの輸入を奨励するために、1703年のメシュエン条約下で、イングランドの差別的関税が交渉されていた。<sup>58</sup>

『諸国民の富』でスミスは、メシュエン条約はイングランドにとっては、実際のところ全く不利な協定の一例として選択している。国内消費者に対する不愉快な税を見出したという。メシュエン条約によって、消費者は高関税ゆえに近隣の国（つまり協定国以外）から、自分の国では製造できない商品を購入することを妨げられる。しかし、遠距離の国の財の品質は近隣の国の財の品質より劣っていることが分かっている、遠いところにある国からそれを購入することを余儀なくされる。製造業者が、条約がなかった場合にあり得る条件よりもより有利な条件で、遠い国に生産物のいくらかを輸出することができるようにするために、本国消費者はこの不便さ

に従うことを余儀なくされる。この強制された輸出は本国市場でほかならぬこれらの生産物の価格の増価分がどれだけ高いものにするにしても、消費者が、それを支払うことを余儀なくされる。<sup>59</sup> メシュエン条約によって優遇された商人と製造業者にとっては、この条約は有利かもしれないが、優遇措置を与えた国の商人と製造業者にとっては必然的に不利になる。なぜなら、このようにして、彼らにとっては不利な独占が外国に対して与えられ、他の諸国との自由競争が認められている場合よりも、より高い価格で、必要な外国製品を頻繁に購入しなければならないからである。<sup>60</sup> ついでながら、アダム・スミスは赤ボルドーワインを好んだので、メシュエン条約は馬鹿馬鹿しいほど過大評価されているという。<sup>61</sup>

### 9. ポルトガルにとってのメシュエン条約<sup>62</sup>

ドーロ (Douro) 地域は以前、荒廃状態だったが、農業の大規模な拡大がこの条約によって、導かれ、今や大量のブドウの木であふれている。ポルトガルは重要な毛織物製品製造国になる可能性がなかったので、その供給をイングランドに求めても、ポルトガルは損をすることは何もなかった。この条約は比較優位を得るために補完的な資産を、それぞれの国に持たせることを許したといえる。そしてそれゆえ、ポルトガルは毛織物をスペインにあまり依存しなくてもよくなり、一方、イングランドはフランスからワインをあまり輸入しなくてもよくなった。フランスとスペインはこの条約から被害を被り、メシュエン条約を非難し、ポルトガルはこの条約によって、イングランドの政治的・経済的奴隷になったと宣言した。

### 10. 結びに代えて

メシュエン条約はイングランドの国益を促進するために慎重に計算されたものであったと、長い間賞賛されてきた。しかし、この条約の条項によってイングランドを赤ワインを飲む国からポートワインを飲む国に変化させた。この条項ゆえに、潜在的に巨

大であったかもしれない英仏貿易が妨げられたことが注目されるようになった。<sup>63</sup>

メシュエン条約の今日的意義は、多角的貿易協定よりも特惠貿易協定を好む政治家に対する非難であるというスミスの議論は核心を突いている。<sup>64</sup> メシュエン条約は赤ワインの代わりにポートワインを150年間飲ませるように仕向けた。イングランドでの痛風やアルコール依存症を大きく増大させた。<sup>65</sup> ビスケー湾の荒海を通過する船路のためには、ブランドーをワインに加える必要があった。これによって、航海中のワイン劣化を減らすことができたのである。しかし、この結果、今日でさえも強くて芳醇でフルーティーなワインに対する選好が存続しているという。<sup>66</sup> リチャード・コブデンによると、イングランドは混ぜ物によって品質が落ちたワインという帰結に苦しんだという。<sup>67</sup>

さらにメシュエン条約によって喚起された貿易は、デイビッド・リカードが比較優位の理論を提示するために使われたが、その理論に不朽の名声を与えたことになったのは皮肉なことである。<sup>68</sup>

### 註

- 1 Kenney, p. xvi.
- 2 Wagley, p. 53.
- 3 List, p. 131.
- 4 List, pp. 131-132.
- 5 Stephen, pp. 97-111.
- 6 Livermore, p. 326.
- 7 Keen, p. 180.
- 8 William, p. 330.
- 9 Columbia University Press, "Peter II (king of Portugal),"
- 10 Cannon, J.A. p. 640 ; Marriott, p. 150.
- 11 Columbia University Press, "Catherine of Braganza,"
- 12 Frey et al. p. 287.
- 13 Columbia University Press, "John V (King of Portugal),"
- 14 Chapman, p. 160.
- 15 Richard, p. 54.
- 16 Victoria, p. 60.
- 17 Savage, p. 41.
- 18 もちろんフランス産ワインのイングランドへの密輸があったことは否定できないだろう。Western Mail, p.

- 28 ; Richard, p. 54.
- 19 Gordon, p. E 1.
- 20 Ross, p. 4.
- 21 Western Mail, p. 28.
- 22 Olson et al. (1992). pp. 400-1, Olson et al. (1991). pp. 619-620.
- 23 1703年5月の条約は次の文献を参照すること。  
Stephen, pp. 354-362.
- 24 Livermore, p. 327.
- 25 Livermore, p. 328.
- 26 Livermore, p. 328.
- 27 Pomfret, p. 17.
- 28 Wagley, p. 53.
- 29 Bastable pp. 37-8.
- 30 Knight, p. 319.
- 31 Richard, p. 54.
- 32 Usher, pp. 282-3.
- 33 Kenney, p. xvi.
- 34 Williamson, p. 336.
- 35 Walpole, pp. 151-152.
- 36 Cypher, p. 120.
- 37 Frank, p. 104.
- 38 Frank, p. 108.
- 39 Sadlier, p. 93.
- 40 Wagley, p. 53.
- 41 Normano, p. 151.
- 42 Bernstein, p. 109.
- 43 Ferro, p. 58.
- 44 Nazzari, p. 149.
- 45 Stern, p. 36.
- 46 Way et al. pp. 92-93.
- 47 Ungewitter, p. 64.
- 48 Needler, p. 150.
- 49 Sadlier, p. 106.
- 50 Heinowitz, p. 25. 武力又は経済的従属による1国の征服は基本的には違いがなく、経済的征服は通常、最終的に政治的隷属を導く。その例がメシュエン条約以来のポルトガルであるという見解がある。Barnes, p. 188. メシュエン条約以来、ポルトガルは実質的に英国の植民地であったと考えられた。Evanson, p. 31. 英国重商主義制度の縁辺的な地位をこの条約によってポルトガルは受け入れた。Schneider, p. 205.
- 51 Columbia University Press, "John V (King of Portugal)."
- 52 Mead, p. 28.
- 53 Booth, p. 304.
- 54 Albala, p. xi ; p. 81.
- 55 Cannon, J.A. p. 640.
- 56 Nye, p. 25.
- 57 Conybear, p. 44.
- 58 Moon, p. 237. Lipson, *The Growth of English Society*, p. 155.
- 59 Smith, p. 661.
- 60 McLean, p. 125.
- 61 Fay, p. 100.
- 62 この節の記述は Nowell, p. 160 に依存している。
- 63 この条約が創り出す貿易転換効果で非難された。  
Robson, p. 8.
- 64 Mclean, p. 73.
- 65 Sumner, p. 478.
- 66 Evening Chronicle, p. 22.
- 67 Cobden (1835), p. 42.
- 68 Findley, p. 252.

### 参考文献

Albala, Ken. *Food in Early Modern Europe*. Westport, CT : Greenwood Press. 2003. p. xi.

Barnes, Harry Elmer. *Sociology and Political Theory : A Consideration of the Sociological Basis of Politics*. New York : A.A. Knopf. 1924. p. 188.

Baronov, David. *The Abolition of Slavery in Brazil : The "Liberation" of Africans through the Emancipation of Capital*. Westport, CT. : Greenwood Press. 2000. p. 122.

Bastable, C. F. *The Commerce of Nations*. 8<sup>th</sup> ed. London : Methuen & Co. 1917. p. 38.

Bernstein, Peter L. *The Power of Gold : The History of an Obsession*. New York : Wiley. 2000.

Black, Jeremy. *A System of Ambition? British Foreign Policy 1660-1793*. New York : Longman. 1991.

Booth, Edward Townsend. *God Made the Country*. London : Cassell. 1947. p. 304.

Cannon, J. A. "Methuen Treaty," *The Oxford Companion to British History*. Oxford : Oxford University Press. 1997. p. 640.

Brown, Richard. *Society and Economy in Modern Britain, 1700-1850*. London : Routledge. 1991. P162.

Cavendish, Richard. "The Methuen Treaty : December 27th, 1703," *History Today*. History Today Ltd. Volume 53. Issue 12. December 2003. p. 54.

Chapman, A. B. Wallis. "The Commercial Relations of England and Portugal, 1487-1807," *Transactions of the Royal Historical Society*, Third Series, Vol. 1, 1907, pp. 157-179.

Cobden, Richard. *The Political Writings of Richard Cobden*, with a Preface by Lord Welby, Introductions by Sir Louis Mallet, C. B., and William Cullen Bryant, Notes

by F.W. Chesson and a Bibliography, vol. 1, London : T. Fisher Unwin, 1903.

Columbia University Press. "John V (king of Portugal)," *The Columbia Encyclopedia*. 6 th ed. Columbia University Press. 2014.

Columbia University Press. "Oporto," "Peter II (king of Portugal)," *The Columbia Encyclopedia*. 6 th ed. Columbia University Press. 2014.

Conybear, John A.C. "Leadership by Example? : Britain and the Free Trade Movement of the Nineteen Century." *Going Alone The Case for Relaxed Reciprocity in Freeing Trade*. edited by Bhagwati, j. Cambridge, Massachusetts : The MIT Press. 2002. p. 44.

Cypher, James M. and Dietz, James L. *The Process of Economic Development*. London : Routledge. 1997. P. 120.

Columbia University Press. "John V (king of Portugal)," *The Columbia Encyclopedia*. 6 th ed. Columbia University Press. 2013.

Davenant, Charles. *An account of the trade between Great-Britain, France, Holland, Spain, Portugal, Italy, Africa, Newfoundland, &c. with the importations and exportations of all commodities, particularly of the woollen manufactures : deliver'd in two reports made to the Commissioners for Publick Accounts*. London : Printed for A. Bell, W. Taylor and J. Baker. 1984.

Decker, Sir Matthew. An essay on the causes of the decline of the foreign trade consequently of the value of the lands of Britain, and on the means to restore both. Begun in the year 1739. London : printed for J. Brotherton at the Bible in Cornhill. 1744.

Dewitt, John. *Early Globalization and the Economic Development of the United States and Brazil*. Westport, CT. : Praeger. 2002. p. 3.

Lefebvre, Georges. *The French Revolution : From Its Origins to 1793*. translated by Evanson, Elizabeth Moss. London : Routledge. 2001. p. 31.

Evening Chronicle, "Test Your No'l-Edge Here!" *Evening Chronicle* (Newcastle, England). December 19, 2006. p. 22.

Fay, C. R. *Adam Smith and the Scotland of His Day*. Cambridge, England : University Press. 1956. p. 100.

Ferro, Marc. *Colonization : A Global History*. London : Routledge. 1997. P. iii.

Fisher, H. E. S. "Anglo-Portuguese Trade, 1700-1770," *The Economic History Review*, New Series, Vol. 16, No. 2 (1963), pp. 219-233.

Findlay, Ronald. and O'Rourke, Kevin H. *Power and Plenty : Trade, War, and the World Economy in the Second Millennium*. Princeton, NJ : Princeton University Press.

2007. p. 252.

Francis, A. D. "John Methuen and the Anglo-Portuguese Treaties of 1703," *The Historical Journal*. vol. III. No. 2. 1960.

Francis, A. D. *The Methuens and Portugal 1691-1708*. Cambridge : Cambridge University Press. 1966.

Frank, Andre Gunder. *World Accumulation, 1492-1789*. New York : Algora. 1978. p. 76.

Frey, Linda and Frey, Marsha *The Treaties of the War of the Spanish Succession : An Historical and Critical Dictionary*. Westport, CT : Greenwood Press. 1995. p. 287.

Gordon, Kendall, "Portugal Offers a Stunning Vintage," *The Roanoke Times* (Roanoke, VA). January 29, 2014. p. E1

Alastair Hamilton Alexander H. De Groot and Maurits H. Van Den Boogert. *Friends and Rivals in the East : Studies in Anglo-Dutch Relations in the Levant from the Seventeenth to the Early Nineteenth Century*. Boston : Brill. 2000. p. 116.

Harrod, Jeffrey. "Global Realism : Unmasking power in the International Political Economy," *Critical Theory and World Politics*. edited by Jones, Richard Wyn. Boulder, CO : Lynne Rienner. 2001. p. 115.

Heinowitz, Rebecca *Cole British Romanticism and Spanish America, 1777-1825 : Rewriting Conquest*. Edinburgh : Edinburgh University Press. 2009. p. 25.

William Henry Hurlbert. "Reciprocity and Canada," *The North American Review*, Vol. 153, No. 419 (Oct., 1891), pp. 468-480.

Keen, Benjamin. *Readings in Latin-American Civilization : 1492 to the Present*. Boston : Houghton Mifflin. 1955. p. 180.

Kenney, Martin. And Florida, Richard. *Locating Global Advantage : Industry Dynamics in the International Economy*. Stanford, CA : Stanford University Press. 2004. P. xvi.

John, Ramsay McCulloch. *A Dictionary, Practical, Theoretical and Historical of Commerce and Commercial Navigation*, 1832.

Kindleberger, Charles P. *World Economic Primacy, 1500 to 1990*. New York : Oxford University Press. 1996. p. 42.

Knight, Melvin M. Barnes, Harry Elmer. and Fleugel, Felix. *Economic History of Europe in Modern Times*. Boston : Houghton Mifflin Company. 1928.

Levi, Leone. *History of British commerce and of the economic progress of the British Nation, 1763-1870*. London : John Murray 1872.

Lipson, E. *The Economic History of England*. vol. III : *The Age of Mercantilism* sixth edition. London : Adam and Charles Black. pp. 112-114.

Lipson, E. *The Growth of English Society A Short Economic History*. London : Adam and Charles Black. p. 155.

- List, Friedrich. *National system of political economy*. Translated from the German by G. A. Matile, including the notes of the French translation, by Henri Richelot ... with a preliminary essay and notes, by Stephen Colwell. by Philadelphia : J. B. Lippincott & co. 1856.
- Livermore, H. V. *A History of Portugal*. Cambridge, England : Cambridge University Press. 1947. p. 326.
- McLean, Iain. *Adam Smith : Radical and Egalitarian : An Interpretation for the 21 st Century*. Edinburgh : Edinburgh University Press. 2006. p. 73.
- Marriott, J. A. R. *The European Commonwealth : Problems Historical and Diplomatic*. Oxford : The Clarendon Press. 1918. p. 150.
- Mead, William Edward. *The Grand Tour in the Eighteenth Century*. Boston : Houghton Mifflin Company. 1914. p. 28.
- Moon, Bruce E. *Dilemmas of International Trade*. Boulder, CO. : Westview Press. 2000. p. 237.
- Nazzari, Muriel. *Disappearance of the Dowry : Women, Families, and Social Change in Sao Paulo, Brazil (1600-1900)*. Stanford. CA : Stanford University Press. 1991. p. 149.
- Needler, Martin C. *The Problem of Democracy in Latin America*. Lexington, MA : Lexington Books. 1987. p. 150.
- Normano, J. F. *Brazil : A Study of Economic Types*. Chapel Hill, NC : The University of North Carolina Press. 1935. p. 151.
- Nowell, Charles E. *A History of Portugal*. New York : D. Van Nostrand. 1952. p. 160.
- Nye, John V.C. *War, Wine, and Taxes The Political Economy of Anglo-French Trade, 1689-1900*. Princeton and Oxford : Princeton University Press. 2007. pp. 25, 27.
- Olson, James S. Shadle, Robert. Marlay, Ross. Ratliff, William G. and Rowe Jr. Joseph M. *Historical Dictionary of European Imperialism*. New York : Greenwood Press. 1991. p. 619.
- Olson, James S. Slick, Sam L. Freeman, Samuel. Burnett, Virginia Garrard. and Koestler, Fred. *Historical Dictionary of the Spanish Empire, 1402-1975*. New York : Greenwood Press. 1992. p. 401.
- Pomfret, Richard. *The Economics of Regional Trading Arrangements*. Oxford : Clarendon Press. 1997. p. 17.
- Ramsay, G. D. *English Overseas Trade during the Centuries of Emergence : Studies in Some Modern Origins of the English-Speaking World*. London : MacMillan. 1957.
- Redding, Cyrus. *A history and description of modern wine*. 3d ed. with additions and corrections. London : H. G. Bohn. 1851.
- Richard, Cavendish, "The Methuen Treaty : December 27th, 1703," *History Today*. Volume : 53. Issue : 12 December 2003. p. 54.
- Robson, Peter. *The Economics of International Integration*. London : Routledge. 1998.
- Sadler, Darlene J. *Brazil Imagined : 1500 To the Present*. Austin, TX : University of Texas Press. 2008. p. 93.
- Ross, Mary. "Port Enjoys Worldwide Market," *Daily Herald* (Arlington Heights, IL). November 29, 2006. p. 4.
- Savage, Helen. "Port and Starboard Shippers : WINE," *The Journal* (Newcastle, England). December 16, 2011. p. 41.
- Schneider, Ronald M. *Brazil : Culture and Politics in a New Industrial Powerhouse*. Boulder, CO : Westview Press. 1996. p. 205.
- Simpson, James. *Creating Wine : The Emergence of a World Industry, 1840-1914*. Princeton, NJ : Princeton University Press, 2011, p. iii.
- Smith, Adam. *An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*. edited by Bullock, C. J. New York : P. F. Collier & Son. 1909. p. 364, 661.
- Stephen, Whatley. *A General Collection of Treatys of Peace and Commerce, Renunciations, Manifestos, and other Publick Papers, from the Year 1642, to the End of the Reign of Queen Anne*. Vol. III. London : Printed for J. J. and P. Knapton, J. Darby, D. Midwinter and 11 others. 1732.
- Stern, Jacques. *The French Colonies : Past and Future*. New York : Didier. 1944. p. 36.
- Sumner, William Graham. *Folkways : A Study of the Sociological Importance of Usages, Manners, Customs, Mores, and Morals*. Boston : Ginn. 1906. p. 478.
- Ungewitter, F. H. *Europe, its past and present condition being a comprehensive manual of European geography and history*. New York : A.S. Barnes & co. 1854.
- Unwin, Tim. *Wine and the Vine : An Historical Geography of Viticulture and the Wine Trade*. London : Routledge. 1996. p. 3.
- Usher, Abbott Payson *An Introduction to the Industrial History of England*. New York : Houghton Mifflin Company. 1920.
- Victoria, Moore. "Don't Pass the Port-Linger at Least for a Weekend. Oporto, Portugal's second City, is a First-Rate Choice for a Weekend Break," *Daily Mail* (London). April 19, 2003. p. 60.
- Viton, Albert. *Great Britain, an Empire in Transition*. New York : The John Day Company. 1940.
- Wagley, Charles. *An Introduction to Brazil*. New York : Columbia University Press. 1963. p. 53.
- Walpole, Spencer. *Foreign Relations*. New York : Mac-

millan and Co. 1882. p. 149.

Way, Ruth. and Simmons, Margaret. *A Geography of Spain and Portugal*. London : Methuen. 1962. p. 92-93.

Western Mail, "The Changing Methods of Storing Wine," *Western Mail* (Cardiff, Wales). November 1, 2003.

p. 28.

William, Sir Foster. *England's Quest of Eastern Trade*. London : A. & C. Black. 1933. p. 330.

Williamson, James A. *A Short History of British Expansion*. New York : Macmillan. 1931. p. 336.

蔵谷哲也

## 抄 録

メシエン条約はある種類の二カ国間協定であり、現代において採択される差別的な二カ国間貿易取極めが、その協定参加国の経済行動にどんな影響を及ぼすかという教訓を与えている。本稿では、条約締結に至る背景、条約の政治・経済的效果について論じた。この条約が少なくともイングランドの消費者の飲酒を、フランス産赤ワインからポートワインに強制的に変更させたことは否定できない。

キーワード：条約，ポルトガル，イングランド，ワイン